

目 次

I	研究の概要	1
1	研究主題	
2	研究主題設定の理由	
3	めざす児童像	
4	研究の内容	
5	授業改善のための研究授業・授業研究会の充実	
6	研究組織	
7	研究計画	
II	研究の実際	8
1	「聴き合う関係」を育てるため	
2	学び合いを深めさせ支え合う関係を育てるための手立て	
3	単元全体の目標を達成するため、学び合いを効果的に取り入れていく	
4	学校課題研究・教材研究の時間として「文殊の知恵タイム」を毎週金曜日 4：15～4：30の15分間実施する	
5	授業参観において、「学び合い」の授業を行い、保護者に「学び合い」のよさを伝える機会とする	
6	学び合いアンケートの実施	
7	家庭学習“本気”週間・親子読書週間を学期1回年間3回実施する	
8	できるだけ多くの職員が「学びの共同体」実践校の視察をして、学んだことを持ち帰り全職員に伝える	
9	授業改善のための研究授業・授業研究会の充実	
10	公開研究会をもち、全教師が授業を公開する	
III	成果と課題	14
1	成 果	
2	課 題	

「学び合い」で授業が変わる、子どもが変わる、教師が変わる

提案者 日光市立大沢小学校教諭 石川 創未

I 研究の概要

1 研究主題

「たがいに聴き合い、学び合い、支え合う児童の育成」
～思考力・表現力を高め合う授業を通して～

2 研究主題設定の理由

(1) 学校経営ビジョンと「授業改善デザイン」（日光市教育委員会）から

本校は、「児童に、保護者に、地域の方々に『笑顔と希望を与える』」ことを学校経営ビジョンとし、日々の授業の充実に努めている。1時間1時間の授業を中心に「たがいに聴き合い、学び合い、支え合う児童の育成」を図ることは、保護者や地域の方々にも「たがいに聴き合い、学び合い、支え合う関係を広げていくことに通じている。そして、やがて「児童に、保護者に、地域の方々に『笑顔と希望を与える』」ことにつながっていくと考えられる。

また、昨年度日光市教育委員会から示された「授業デザイン」によれば、目指す授業像が次のように掲げられている。

子ども主体の学びのある授業づくりを、問題解決的な授業、学び合いのある授業である「〈問い合わせ〉のある課題を、学び合いながら解決する授業」により実現する。

上記に示されているような子ども主体の学びのある授業づくりを実現するためには、「たがいに聴き合い、学び合い、支え合う児童の育成」を図ることが大切な土台となると考えた。

(2) 昨年度の学校課題と児童の実態から

本校は、一昨年度「ともに学び合い、たがいに表現を高め合う児童の育成」～（算数科において）児童の思考過程に寄り添うことを通して～という研究主題のもと実践・研究を進めてきた。その成果として、「ペアやグループ学習において、学び合いが成立することが増え、考えが深まってきた」「さらに高いレベルの課題に挑戦しようとする子が増えってきた」「ノートに自分に合ったやり方で解決方法を表現できるようになってきた」「友だちにわかりやすいアドバイスや伝わりやすい発表ができるようになってきた」等があげられた。

昨年度は、「たがいに聴き合い、学び合い、支え合う児童の育成」～「アクティブラーニング」と「ジャンプの課題」を通して～という研究主題のもと実践・研究

を進めてきた。その結果、次の3点で成果が見られた。

○ペア学習やグループ学習を積極的に取り入れ聴き合う関係の醸成に努めたことに
より、子どもたちがつながり安心して学べるようになった。

○学力（上位・中位・下位）に関係なく、すべての子どもたちが「ジャンプの課題」
に夢中になって取り組み、探究する姿が見られるようになってきた。

○「ジャンプの課題」の解決をめざす過程でペアやグループによる学び合いが深ま
り、思考力・表現力が高まってきた。

今後の課題として、「教科の特質をいかしながら単元全体を通して『質の高い学
び』を探究させる」ことが焦点化された。

以上のことから、今年度も、1時間1時間の授業を通して「たがいに聴き合い、
学び合い、支え合う関係」をつくることを土台としていくことにした。

(3) 昨年度の取組から

昨年度本校では、日光市教育委員会による「子ども主体の授業づくり訪問」を2
回にわたり受け、指導主事による指導助言のもと授業改善を進めてきた。

また、10回にわたる研究授業・授業研究会（一人2回以上の研究授業）を通して、
授業中の子どもの学びを見取りそれを出し合い、教師同士がそこから互いに学び合
う関係が醸成されてきた。昨年11月には、市内の教師を招き「全学級による授業公
開」を行い、学校課題達成に向けた取組を見てもらい共に協議し合った。そのこと
により、さらに1歩研究を進めることができた。

これらの取組を引き続きいかすためにも、「たがいに聴き合い、学び合い、支え
合う児童の育成」を図りたいと考えた。

以上3点の理由から、本主題を設けた。

3 めざす児童像

学校経営ビジョン	児童に、保護者に、地域の方々に「笑顔と希望を与える」		
	<input type="checkbox"/> すすんで学ぶ子	<input type="checkbox"/> 元気でやりぬく子	<input type="checkbox"/> なかよく働く子
研究 主 題	「たがいに聴き合い、学び合い、支え合う児童の育成」 ～思考力・表現力を高め合う授業を通して～		
めざす児童像	<ul style="list-style-type: none">・わからないとき、友だちにきける子ども・友だちにきかれたとき、わかりやすくアドバイスしようと する子ども・もう1歩上のレベルを探究していく子ども・たがいに学び合い、支え合う子ども		

4 研究の内容

(1) 「聴き合う関係」を育てるための手だて

①学習環境を整える

○机の配置 … 全学年通常コの字型

1・2年は、いつでもペアで話せるように

3~6年は、学習内容によって、男女混合4人グループ（5人に

はしない、3人グループもOK）やペアで学び合いができるように

※座席は、ランダム。くじ引きでよい。席替えは、実態に応じて
適宜行う。

○黒板前に机類を置かない。椅子を1つ置いてもOK。

※子どもと目線を合わせられるようにするため

○実物投影機、デジタル教科書（国語、算数）をいつでも使えるようにしておく。

②授業中（授業を「学級づくり」の中核に！）

○友だちや教師の話を耳をすませて



まず、教師が子どもの話を耳を澄
ませて聞くこと（できそうででき
ないこと！）

「友だちはなし、大切にしよう」「○○さんはなし、ききとれたかな？」

「最後まできこう」

○わからないことは、友だちに聞く姿勢を育てる。

子「ここ、わからないんだけど」 教師「友だちに聞くって大切なこと」

子「ここ、どうするの」 教師「友だちに聞くとかしこくなれるね」

子「どこ、やってるの」 教師「友だちに聞くと新しいことがわか
るよ」

○友だちにきかれたら、自分の
イスする姿勢を育てる。



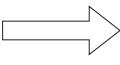
することをやめてわかりやすくアドバ

教師「友だちにアドバイスすると、いっ
しょにかしこくなれるね」

教師「友だちにアドバイスすると、い
いアイディアが浮かぶよ」

教師「友だちにアドバイスしたことは、
ずっと忘れないで役立つよ」

○一人の子をつくらない。



一人になりそうな子のそばに、まっ先に行き「つなげる」

（つながってほしい子の

教師「どこでこまってるの？」

方からの声かけ）

教師「こまってるところ、言ってごらん」

※目線を合わせて

教師「『わからない』って、ふきだしに書い
てみよう」

教師「『わからない』ところに、線をひいて
ごらん」

一人になりがちな子ほど、こだわりが強く自分で何とか解決しようとする傾向がある。

「おとなりさんに聞いてみたら…きっと、いいヒントがもらえるよ」

「『ここ、どうするの？』って、聞いてごらん」

「『これでいいの？』って、聞いてごらん」

(2) 学び合いを深めさせ支え合う関係を育てるための手立て

○「質の高い学び」を目指す課題（教科書より1段階か2段階レベルの高い課題）を工夫して、学びの質を高める。

- ・学校生活や日常の生活で活用できる課題
- ・多様な解決方法が考えられる課題
- ・1学年か2学年上の単元につながる課題
- ・多くの情報から必要な情報を選び解決する課題

★レベルの目安 学級で一番高位の子が自力で解決できないと思われるレベル

※いずれも、子どもたちが興味関心をもって取り組める課題が望ましい。

※子どもたちに課題づくりをさせることも有効（教師が思いもつかないような手ごたえのある難問が生まれることも）

○学習の目的に合った「アクティブラーニング」（コの字型、ペア学習、グループ学習）の工夫

- ・子どもの「つぶやき」や「ノートへの書き込み」を積極的に取り上げ、授業を組み立てる。
- ・基礎基本の定着を図る授業においても、ペア学習やグループ学習を効果的に取り入れる。

○教師の姿勢

- ・テンションを下げる。（子どもたちが安心して教室に居られる声）

・（授業中）教師三大心得

★「聴く」… 子どものつぶやきや発言を耳を澄ませて聞く。

★「もどす」… テキストや学習課題や友だちの発言にもどす。

「（教科書の）どこからそう思ったの？」

「（学習課題）どう書いてあったかな？」

「だれの考えからつなげたの？」

「（発言した）○○さんが言ったこと、おとなりさんに伝えてみよう」

「（発言した）○○さんの気持ち、わかる人、言ってみて」

★「つなぐ」… 「（○○さんに）つながる人？」

「（○○さんに）つなげてみて？」

「（○○さんに）つながること、おとなりさんと話してみて？」

○教師の居方を大切に

- ・学び合いでは、だれともつながれない子のところにまっ先に行き、つなぐ。
- ・グループでの学び合いが停滞しているところに近づく。
- ・つぶやきをひろう動きを。

○子どものまちがいやつまずきは、新たな学びの機会ととらえて、いかしていく。

(3) 単元全体の目標を達成するため、学び合いを効果的に取り入れていく。

○単元の目標を達成するために、「基礎基本、知識・技能の習得をねらいとした授業」と「思考力・表現力を高め合うことをねらいとした授業」に分けて、より効果的に学び合いを取り入れ「質の高い学び」を探究させる。

(4) 学校課題研究・教材研究の時間として「文殊の知恵タイム」を毎週金曜日 4：15～4：30の15分間実施する。

○テーマを決めて、実施する。

○研究授業前には、「文殊の知恵タイム」や月曜日放課後に授業者が授業内容についてきく時間をとる。

(5) 授業参観において、「学び合い」の授業を行い、保護者に「学び合い」のよさを伝える機会とする。

○できれば、保護者が学習参加する機会をとる。

- ・4月28日(木) 授業参観
- ・6月29日(水) 授業参観
- ・12月7日(水) 学校公開
- ・2月15日(水) 授業参観

(6) 学び合いアンケートの実施（約1ヶ月に1回ペース、計10回実施）

○月1回実施し、子どもたちは安心して学んでいるか、聴き合う関係はできているかを把握する 一つのバロメーターにする。

(7) 家庭学習“本気”週間・親子読書週間を学期1回年間3回実施する。

○3回とも重点目標をしづって実施する。

(8) できるだけ多くの職員が「学びの共同体」実践校の視察をして、学んだことを持ち帰り全職員に伝える。

○今年度もできるだけ多くの職員が「学びの共同体」実践校の視察ができるようにする。

○今年度は、大沢中と本校で全職員が1年に1度は互いの研究授業・授業研究会に参加し、「学び合い」（子ども主体の授業）について意見交換することで、小中連携を深めていく。

5 授業改善のための研究授業・授業研究会の充実

研究授業・授業研究会を学校課題研究推進のための大きな柱とする。

- ・全職員年間最低2回の研究授業を実施する。

○個人研究テーマを決める。 ※学校課題達成につながるテーマとする。

※研究教科は自由。

○ブロックごとに授業デザインについて協議する時間をとる。

※授業研究会での職員相互の学び合いに重点を置く。

○指導案は、授業デザインとする。

○7回とも、市教委等から外部指導者を要請する。

(1) 研究授業

《授業者》

- ・一人一人の学びを見取りながら、授業を展開していく。

《参観者》

- ・見るグループ（ペア）をしづり、子ども同士がたがいに聴き合っているか、学び合っているか、支え合っているかを見取る。授業者の働きかけによる子どものつぶやきや表情などささいな変化を見取ることが、授業者のひいては自分自身の学びとなる。
- ・「わからない子」がわかるようになったきっかけを見取る。
- ・友だちとかかわれない一人でいる子が何らかの形で（一瞬でもいい）友だちとつながれたかどうかを見取る。

(2) 授業研究会

○研究授業における子どもの学びの事実の省察から、教師同士が学び合う場とする。

※授業の善し悪しで評価している限り、教師は成長できない。

○授業中の子どもたちの様子から見取ったことを中心に話し合う。

そのためにも、参観中の見取りを大切にする。子どもたちの見取りがていねいで具体的であればあるほど、授業研究会での協議は充実し深まる。

○全体会においては、参加者全員が1度は発言するようにする。（同僚性を發揮する場とする）

○子どもの学びの事実の省察が深まってきたら、「質の高い学び」に到達できたかどうか協議する。

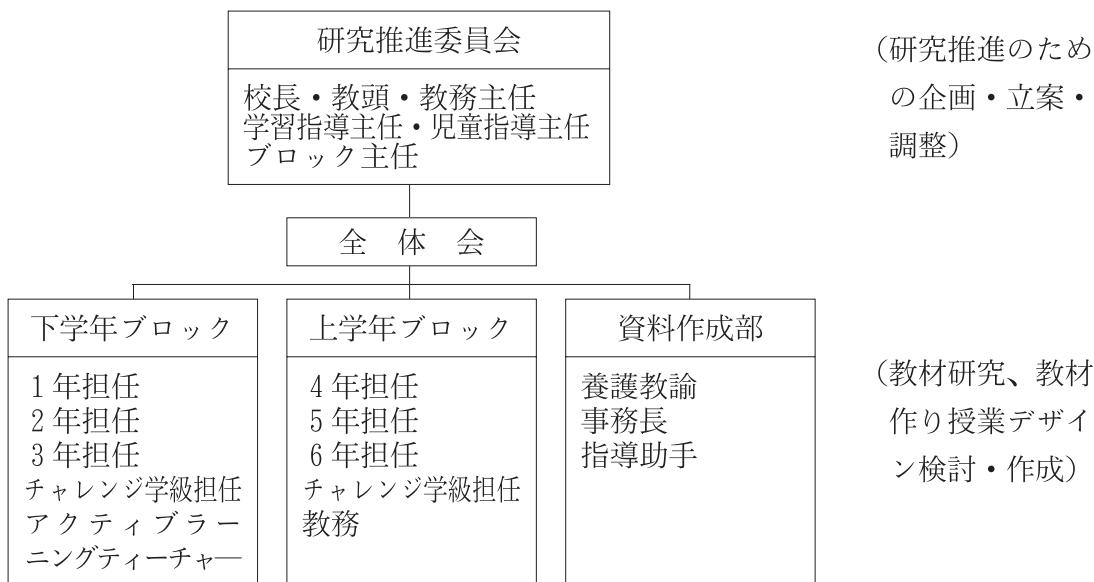
《授業者》

- ・授業中、自分では見取れなかった子どもたちの様子を参観者から聞くことで、新たな学びとことができる。

《参観者》

- ・授業をみてそこから学んだことを話題にする。
- ・授業の見方も学ぶことができる。

6 研究組織



7 研究計画

月	内 容
4	学校課題（研究主題・研究内容について） 学校課題（授業開きにあたって、家庭学習の手引き作成） 学校課題（研究授業の授業者決定）
5	第1回研究授業・授業研究会
6	第2回研究授業・授業研究会 第3回研究授業・授業研究会
7	学校課題（1学期の成果と課題）
8	夏休み研修報告 第4回研究授業・授業研究会
9	
10	第5回研究授業・授業研究会
11	第6回研究授業・授業研究会「全学級授業公開」
12	学校課題（2学期の成果と課題）
1	
2	第7回研究授業・授業研究会
3	今年度の研究のまとめ 次年度の研究推進の方向性について検討

II 研究の実際

1 「聴き合う関係」を育てるため

- 相手の話を聴き、それにつなげた（続けた）
話ができるようになった。
- 相手の話を自分のこととして受けとめて話
せるようになってきた。
- 自分の話が終わった後、「〇〇くん、〇〇
ちゃんはどう？」と問い合わせる。
- 1つの考えだけでなく、他の考え方で説明し
たりできるようになってきた。
- 言いたいことは言えるが、「聴く」ができ
ない。
- ペアによるので、だれとでもできるようにな
るとよい。
- 尋ねるは、OKだが、つながれない子はま
だいる。
- できている児童とできていない児童に差が
ある。
- ペアによってはできたりできなかったりする。
- 「〇〇ちゃんは？」「わからない」「教えて」この言葉はよく出るようになってきた。
- どの学年も聴き合う関係が育ってきている。
- 「おしえて」と言われたら、一つの方法だけでなくちがう方法でアドバイスしたり
している。
- 1回でわかったかどうか⇒「なんかわかんないな」と言ったりしている。
- 自然と聴き合う態度が見られる。
- わかるまで説明したり、「わからない」と言えたりする場面が多くなってきた。
- しゃべり合う⇒聴き合う⇒学び合う⇒深め合う、が少しずつできるようになってき
ている。
- 自分の関心があった時には聞けるが、いつも聞けるわけではない。
- 自分の意見としては出せるが、人の意見を聞いて自分の学びとするまではいっていない。
- 担任でないからか？「聴く」になっていない⇒聴き合うになってない。
- できている部分もあったが、なかなか難しいというところ。
- 相手の話に続けて、自分の意見が言えるようになってきた。
- 自然に聴き合うようになっている。
- わからないとき、「どうやるの？」と友だちに聞けるようになってきた。
- 発言、発表の際には、注意集中が切れてしまう様子もみられた。
- 「なるほど」「わかってるよ」と言う場合がある。
- わからないとき「どうやるの？」と訊けるが、注意集中がきれてしまうこともある。



2 学び合いを深めさせ支え合う関係を育てるための手立て

- 基本的にできていた。
- 自然な雰囲気。
- 特定の子、まだつながれない子もいる。
- 1つ意見が出たときに、その意見から根拠・理由を聞くことによってさらに考えが深まる。
- 「つなげたい、足りない部分を補う」という面がでてきたが、深まっているかどうかは判断できない。
- 友だちの意見をつなげることはできる。学び合いを深めさせているかはわからない。
- 教えた⇒一方的なところがまだある。さりげなく見守ることがたりない。
- 支え合う→教えるのは好きだが、支えるにはまだなっていない。
- 困っている子がいると気にしている。
- 今までわからなかつたことがわかるようになった。
- 1つの考え方⇒他の考え方もあることに気づく。
- 深め支え合うまではいってない。自分のことだけで精一杯。困っている子には、まだ気をつかえない。
- 学習のねらいに沿って課題解決場面で支え合う様子はよく見られた。「深める」域については、今後の課題。
- 深めさせる?⇒訊いて、また自分の考えを練る。



3 単元全体の目標を達成するため、学び合いを効果的に取り入れていく

- いろんな教科で学び合いを取り入れてきた。

終われば、わかるかもしれない。

- ペアを入れるタイミングは、TTで話し合ってきた。

- 単元全体は、微妙。1時間のなかでしか意識できなかった。

- 単元全体を見通して○時間目に学び合いを取り入れて効果的かどうかまで頭がいかない。

- 1時間の授業のなかで、学び合いをやってみようか、といった感じ。

- できる子に頼りすぎてしまう子(固定)もいる。

- 話合いになってしまふ。⇒学び合いの域に達するのが難しい。

- 目標達成については難しい。自分の考えを伝え合うのはよかったです。

- 繰り返し行っていくことで「効果が上がる」という意味ではOK。

授業デザイン

2016年5月25日(水) 5校時		授業デザイン	授業者:石川 創未
学級名	2年1組	【男子】7名 女子: 11名 計: 18名	
教科名		算数科	
単元名	ひき算のひき算 (10 / 10)		
本時のねらい			
2位数の加減法を適用して問題を解決することを通して、演算を決定する能力を伸ばす。			
△単元について (教材のおもしろさ、教材のもう本質、指導報など) 筆算による減法で子どもたちが最も抵抗を感じるのが、繰り下がりの処理の仕方だと恐われる。繰り下がりの過度な強調を立てて處理することが必要になってくる。また、加法と減法の相互関係を考えさせることを重視したい。計算の確かめについても、手帳本を用いて計算の仕方はどちらかの減法の確かめに加法を使いつかうと考え、それを具体的な場面で活用できるようにさせたい。 本時では、計算をするものによって加法と減法のどちらを適用するかをじっくり考えさせたい。特に、時系列を逆から追う思考も必要になってくるので、1つ1つの問題を順序通りに読みながら、問題を解くときにどうぞ。 ●問題や求めあるものによって加法と減法のどちらを適用するかを比べて、土分対薙させたい。 △加法の場面において、時間はさかのぼり減法で解決できることがあることを理解させたい。			
△時 総合的なねらい ① 基礎・基本をねらい ねらい ② する技術と思考・表現 ことを書いて、減法の筆算の仕方を理解する。 ③ 演算・操作 その仕方を理解し、その計算ができる。 ④ 算数・教科 その計算が何を表すのか理解できる。 ⑤ 算数・教科 その計算が何を表すのか理解し、その計算ができる。 ⑥ 算数・教科 2位数の筆算(繰り下がりあり)の筆算の練習をする。 ⑦ 算数・教科 2位数の筆算(繰り下がりなし)の筆算の練習をする。 ⑧ 算数・教科 2位数の減法を理解し、筆算の確かめに用いることができる。 ⑨ (本時) 算数・教科 2位数の加減法を適用して、問題を解決することができる。 ⑩ 算数・教科 学習内容を適用して、問題を解決することができる。			
△本時の流れ ○パワーポイントで問題場面をイメージさせる。			
1. 学習課題を把握する。 ○ひき算は100問を10回にわけて、1回10問ずつ出題しました。 ○だいたい10回のミス算いました。 ○スコア→1点満点で7点のあと26点になりました。 ○2位数の加減法を理解しました。 ○いろいろな方法で計算しました。 ○2位数の加減法を理解しました。 ○2位数の加減法を理解しました。			
2. 課題を解決する方法を考える。 ○おじきやドット図で問題場面をイメージさせる。			
3. 全体で考え方を共有する。 ○おじきやドット図で問題場面をイメージさせる。			
4. 問題を解決するコツをまとめめる。 ○自分の言葉で書かせる。 ○何人かのまとめを発表させる。			
5. 対応問題に取り組む。 ○ゲーム形式で取り組ませる。			

- できるだけ取り入れるようにしてきた。
 - ペア・グループ活動にするタイミングや全體に戻すタイミングが難しい。
 - 学び合いは効果的にはいかないが、こんな考え方もあるのかというところには目をつけさせることができた。
 - ペアのタイミング、各先生がよく取り入れていた。
 - 単元の導入時に、学び合いを取り入れた。



4 学校課題研究・教材研究の時間として「文殊の知恵タイム」を毎週金曜日 4:15～4:30の15分間実施する 文殊の知恵タイム

- 学びを得られた。たった15分でも情報交換をして参考になることがたくさんあった。
 - 具体的に個人名をあげて「今日の授業でこういうことがあったよ。ふだんは集中できない子がすごく夢中になって学んでいたよ。」という話を聞けたことが役立った。
 - 様々な考えにふれることができた。学びに否定的な意見も聞いて、「これはどうかな」と考えさせられた。
 - いい資料が配されていた。後で、読み返したい。
 - 通信の一番下にのせてある文、繰り返し繰り返し読むとよい。
 - だらだらやらずに時間がしっかり決められていたことが、とてもよかったです。
 - 様々な考え方、参考、情報。
 - 聴き合う関係、同僚性。

文殊の知恵タイム

「猪倉・文殊の知恵」タイム 実施計画

- 1 わらい
○職員同士で「学校課題」や「学びの共同体」についての取り組みを話し合い情報交換することによって、お互いに学び合い、教師の専門家としての成長と児童一人一人がつながりを育成していくことをめざす。
○教材研究を通して教師の授業実践力を向上をめざす。
○職員同士で「行動話まつていくこと」「悩んでいること」を共有することによって、打開策・解決策を探していく。
 - 2 時間
毎週金曜日 PM4：15～4：30 ※15分間で打ち切る。
 - 3 場所
「印刷室」と「校長室」
 - 4 実施方法
○会議用グレーブに分かれで行う。(毎回、ランダムにグレーブ替えをする)
○会議用グレーブに会議室で記録者を決めて前に机を知らせる。
○本日のテーマを係長が決める。
○司会者は進行するが、担当なしのフリートークやサッカーパランに話し合う。

第2回 5月20日（金）

- 「本日のテーマ」

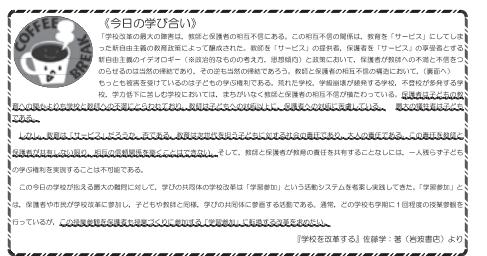
○授業参観時の保護者の学習参加についての情報交換

○学校課題研究会通報No.5の今年度の新たな取組について

 - ・第1回研究授業（石川）の実践をたどき台とする。
 - ・研究授業を行なう単元においてチャレンジできるかどうか。

※背景として、「学び合い」で目に見える成果を出してほしいという市教委からの要請

校長室グループ	印刷室
齋藤丁 中村丁 柳原丁（司会） 土屋丁 伊藤丁（記録） 荒川丁	小林丁（記録） 三品 大山丁 船越丁 右川丁（司会）



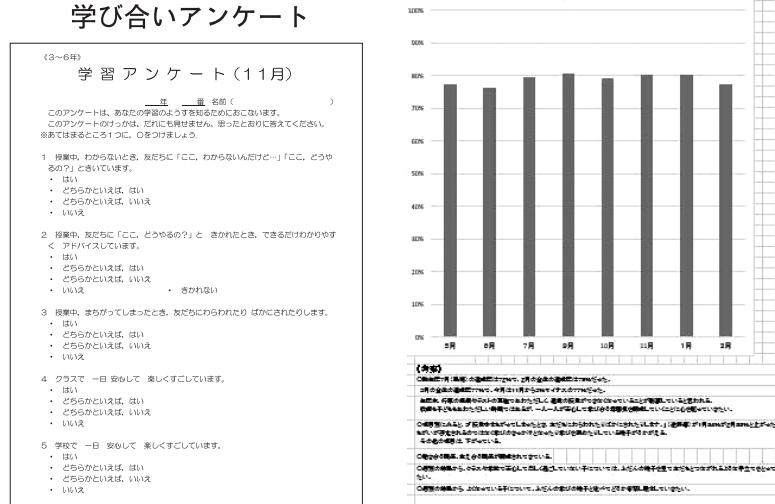
5 授業参観において、「学び合い」の授業を行い、保護者に「学び合い」のよさを伝える機会とする

- 保護者が授業に入ることで、伝わっていればいいが、よさが伝わったかはわからない。⇒訊いてみたい。
 - 保護者は、子どもの様子には興味がある。うまく保護者を巻き込めなかった。学び合いをわかってもらうには、壁があるような？あまり前に入ってきてもらえないかった。
 - 学び合いの雰囲気は味わってもらえた。子どもたちが考えを伝え合う雰囲気はわかつてもらえた。「今の授業って、こんな感じ…」
 - 保護者と相談する時間もとってみたが、伝わっていたかどうかは何とも言えない。安心してもらうことはできた。

- 参加していただいたことは大きい。
- 観てもらって付箋に書いてもらうことはなかなか難しい。タイミングがない。
- 参加型でいい。
- 保護者に入ってもらうことで、雰囲気を味わってもらうことができた。
- 学び合いについては、伝わったと思う。どのように伝わったかはわからない。

6 学び合いアンケートの実施（約1ヶ月に1回ペース、計8回実施）

- 役立った。子どもたちにとっても負担になっていなかった。▲が減ったとか、意識して授業でかかわるようにした。
- 役立った。いつも低い子は低いので、注意しなきゃ thought たりした。
- 回を重ねるごとに項目の意味がわかって意識づけられ評価できるのはよかったです。自分の指導の振り返りにもなった。
- 役立っていた。
- 子どもにも負担にならない。子どもの変容がわかった。
- 子どもたちの変容がわかる。
- 指導できる。



7 家庭学習“本気”週間・親子読書週間を学期1回年間3回実施する

- 意欲には個人差がある。今年は3年目で、続けるのはすごいこと。意欲が低い子もそれなりに高まる。意識はするようになる。親に見せない子もいたが、それなりに高まった。家庭での読書週間をつけさせたい。

- 保護者が意識していた。子どもたちの意欲につながったかはわからない。保護者が強制的にやらせていた。この期間だけは子どももがんばろうとしていた。家庭の読書が足りないことがわかった。家庭でも読む習慣をつけてほしい。

- 子どもにも家庭にも意識に差がある。目に見えない積み重ねが大切。やる気になる子もいる。一人一人増えていけばよいのでは。

1 かていがくしゅうに とりくむじかん	2 に 45分 ~ 3に 45分	3 に 3人のつくえ
4 かていがくしゅうをする ばしょ	5 かいていがくしゅうの「けいかく」と「きろく」(じしゅがくしゅうの「けいかく」を だてましょ)	6 かいていがくしゅうをする ばしょ
7 おうちのひどこ とりくむじかん	8 おうちのひどこ とりくむじかん	9 おうちのひどこ とりくむじかん
10 おうちのひどこ とりくむじかん	11 おうちのひどこ とりくむじかん	12 おうちのひどこ とりくむじかん
13 おうちのひどこ とりくむじかん	14 おうちのひどこ とりくむじかん	15 おうちのひどこ とりくむじかん

- 3年Kさん、3回目で書いてくるようになった。
- 6年Dさん、1回目提出せず。2回目一週間遅れでやってきた。3回目は、家の人にも見てもらいしっかり提出できた。
- 3回目、提出率がよかった。
- 親子読書、なかなか時間がとれないようだ。
- 親が本を読む。→効果があった。
- 親はがんばっている人もいたが、難しいか…。
- 意識に個人差。続けることのよさ。
- 家庭学習については、効果があった。読書までは厳しい。学校では、よく読んでいた。

8 できるだけ多くの職員が「学びの共同体」実践校の視察をして、学んだことを持ち帰り全職員に伝える

- 大いに学びとなった。自分の目で見て、他の学校も同様にやってるんだということがわかり、参考になったし意欲づけにもなった。本校だけではないんだなと肌で感じた。
- 視察したことも報告を聞いたことも勉強になった。いろいろな授業をみることで、発問のしかたや学校によって机の配置がちがうことなどを学べた。
- 他の先生から聞いた報告をもとに、自分が視察に行ったときや講話を聴いたとき、重ねて考えることができたし、検証できることもあった。
- 他の先生から話を聞いて、穏やかに話すことなどが勉強になった。
- 新しい情報を得ることができた。
- 非常に興味深く聞かせてもらった。視察報告については、時間が足りなかつたぐらい。
- 学び合いのときの子どもへの関わり方がためになつた。



神奈川県茅ヶ崎市立浜之郷小学校

9 授業改善のための研究授業・授業研究会の充実

(1) 研究授業

- 今までやったことがなく0からだったので、研究授業をやってみて学びが得られた。
- 講師の先生に指導してもらって、逆にわからなくなってしまったこともあった。
- 学びを得られた。疑問に思うこともあつた。市教委の岡本Tの指導助言は勉強になった。
- 授業を見させてもらってよかったです。雰囲気がわかった。
- たくさん学んだ。多くやったことは、勉強になった。
- 講師の先生の話はとても勉強になった。



- 自分で行うこと・参観すること、様々なことを学べた。
- 見せてもらったことが、大きな学び。
- 見せてもらうことでも、得られる点が多かった。
- 授業作りの視点を学ぶことができた。
- 市教委の先生に迷っているところをピンポイントで訊けた。
- 事前に市教委の先生に授業の意図を伝えることができたことがよかったです。
- 研究授業は、1回だとただやればいいになってしまふ。2回なら指導を受けたことを活かせる。
- 研究授業は1回だけだと物足りない。これからどうやっていくのか見えてきた後、「やってみっかな」というのが1回だとできない。
- 公開1発では、学びがない。
- 成長のために研究授業2回は適度。
- 1回目で考え、2回目で改善、試す。
- 研究授業1回、授業公開1回が適當か？
- 授業デザインは、今のままでよい。とにかく、指導観とか文章におこすことが負担。授業そのものに力を注ぎたい。
- 時間の大まかな流れが猪倉スタイルとした方がよい。
- 今のままなら、授業中の変化もしやすい。練りやすい。



(2) 授業研究会

- こんな意見もあるのかと、新鮮だった。
- よく見ることができていない部分も多かった。これだけでいいのか、アドバイス的なものがないと、よい点を指摘するだけで伸びるのか？
- 子どもの見取り中心の協議、こういう雰囲気で見てもらえばいやな気持ちにならない。批判されてしまうのではないかという不安もあったから。気負わずにいた部分もあった。
しかし、自分のやり方に自身がない分、本当にそれでよいのか、アドバイス的な部分はほしかった。
- 授業者は見とれないことが多い。ダメだったとき（子どもの活動が停滞したとき）、どうすればよかったですのか考え方を出し合うとよい。
- 見とれない部分に関して学びを得られた。



- 多くの学びを得られた。
- いろいろな先生から意見を得られたことはよかったです。
- 2年目となったとき、的確なアドバイスがほしい。
- 子どもたちの活動が停滞してしまったときのアドバイスがほしい。
- 自分ではわからない見取りを聞くことができた。
- 研究授業は成長のため2回が適当。

10 公開研究会をもち、全教師が授業を公開する

- こうしなきゃ、という反省ばかり。
- やる前は冷静沈着にと思っていても、いざ始まるとぶっ飛んじゃう。反省は多いが、回を重ねるしかない。
- 多くの学びを得られた。



III 成果と課題

1 成 果

- 単元の目標を達成するために、効果的に「学び合い」を取り入れていく。
 - ・「思考力・表現力を高め合うことをねらいとした授業」においては、課題・教材（テキスト、資料）と子どもの学びとの接点を見つめ、質の高い学び（深い学び）を探求していくことが大切であることが見えてきた。
 - ・「基礎基本、知識・技能の習得をねらいとした授業」においても、ペアやグループでアドバイスし合いながら取り組むことが有効であることがわかつってきた。
- 子ども同士がたがいにつながれる教室環境を整え、聴き合う関係を育む。（通常は、全学級コの字型）
 - ・わからないときに「ここわからないんだけど、どうするの？」と訊ける子が増えってきた。訊かれた子は、わかるまでていねいにアドバイスすることができるようになってきた。
 - ・学び合いアンケート：「授業中わからないとき、友だちに『ここどうやるの？』ときいています。」について5月の達成度は76%だったが、1月は80%に上がった。
 - ・「わかる」ことより「わからない」ことが大切にされ「わからない」ことが受容される学級は、新たな学びを得るチャンスが増えている。

○研究授業・授業研究会

- ・全職員が2回以上の研究授業を行い、授業研究会で協議し、招いた講師の先生に指導助言をいただけたことは、「学び合い」の授業について新たな学びを得る貴重な機会となった。
- ・11月16日の「授業公開」に向けて、市教委の先生が事前に来校して授業デザインの検討を個別にしてくださった。そのことは、各教師が研究テーマにしている研究教科の専門性を高めることにつながった。また、今後も教科の専門性を高めることを抜きに質の高い学び（深い学び）に迫ることはできないことを改めて認識することができた。
- ・小林和雄先生（福井大学）にすべての授業について指導助言をいただくことによって、今学ぶべきことが明らかになった。また、小林先生の講話から、「主体的で対話的で深い学び」における「学び合い」の位置づけが明確になり、「子どもと対象との対話」という視点をいただけたことで、今後の研究の方向性が見えてきた。
- ・根本光子先生（元つくば市立並木小学校長）に2回来てもらい、その間の子どもたちの学びに向かう姿の変容や教師の成長を見て価値付けしていただけたことは、今後研究を進めていく上で揺らぐことのない足場を得たように感じた。今後迷ったときに戻るべき足場を得たことは大きい。
- ・授業研究会において、各教師から出る子どもたち一人一人の見取りが丁寧かつ的確で、授業者にとってはふだんの授業ではわからない多くの学びを得る場となっている。同僚性が大いに發揮されている。各教師の見取りからは、夢中になって学ぶ子ども一人一人への優しいまなざしを感じる。



○年間4回の授業参観に保護者が学習参加する機会をとり、「学び合い」のよさを伝えていく。

- ・保護者に子どもたちが考えを伝え合う学び合いの雰囲気はわかつてもらえた。
- ・保護者の声「保護者を含めた参加型授業、とてもよかったです。私の小学校の頃とは、だいぶちがいますね。わからないことは友だちにきいて、やさしくわかりやすく教えている姿に感動しました。」「自分が解き終わった後にお友だちにヒントを出しているのを見て、成長したなと思いました。」

○授業をもつ教師全員が「学び合い」実践校の視察をして、新たな学びを持ち帰り全職員に伝える。

- ・授業者11名中9名が「多くの学びを得られた」と答えていた。

- ・授業者の声：「自分の目で見て他の学校も同様にやってるんだということがわかり、参考になったし意欲づけにもなった。本校だけではないんだなと肌で感じた。」

○学校課題研究の時間として「文殊の知恵タイム」（4～5人グループで協議）を週1回15分間実施していく。

- ・「学び合い」についての疑問点を出し合い、「ああじゃない、こうじゃない」とざっくばらんに協議することができた。そのことが、同僚性を高め、専門性を探究するきっかけとなった。
- ・職員が4～5人のグループに分かれ丸テーブルで顔を向き合わせて協議することが、日頃の疑問を出しやすくし新たな学びを数多く生み出すことがわかった。
- ・授業者の声：「個人名をあげて、『今日の授業で、ふだん集中できない子が、すごく夢中になって学んでいたよ』という話を聞けたことが役立った。」

○家庭学習本気週間・親子読書週間を学期1回年間3回実施し、特に自主学習の充実を図る。

- ・家庭学習の1日の平均時間が1学期と2学期では、1年生(29分⇒38分)、2年生(27分⇒25分)、3年生(43分⇒43分)、4年生(44分⇒43分)、5年生(48分⇒65分)、6年生(75分⇒79分)となった。個別に見ると、家人からの励ましがあると、決まった時間に学習に集中できる傾向がある。
- ・今年は実施して3年目で継続していくと意欲が低い子もそれなりに高まっていくことがわかった。
- ・6年Aさんの例：1回目提出なし、2回目1週間遅れで提出、3回目家の人の協力も得られしっかり提出。

○学び合いアンケートを月1回実施し、子どもが安心して学んでいるかを知るバロメーターとする。

- ・項目ごとや学級ごと学校全体などで数値化できるため、子どもが安心して学べているかどうかを大きなスパンでとらえることができる。
- ・5月の学校全体の学び合い達成度は74%で、1月は80%だった。学び合いを通して学級に安心して学ぶ雰囲気が醸成され、安心して学ぶ子が増えていると推察できる。

○思考力・表現力が高まったかどうかの評価の工夫

- ・思考力・表現力が高まったかどうかをペーパーテストだけで評価することは難しいことがわかってきた。学び合いによって思考力・表現力が高まったかどうかを評価するためには、1時間の授業中における見取りだけでは不十分で（子どもの学びは、学びが反対するように内的に実り時間を経て表出されることが多いことがあることがわかつてきたため）、数時間にわたりていねいな見取りを続けていくことが大切になる。その際、子どもに授業中記述させる「振り返り・まとめ」は、教師の見取りと合わせ、評価のための貴重な材料となり得る。

○聴き合う関係

- ・言いたいことをしゃべり合う。訊き合う、尋ねるは、できてきている。
- ・相手のことをくみ取る。それを受けて練り直すことができていない。

- 子どもに預けて⇒子どもたちが学び合いを自動的にできるようになってきた。
- 学び合いを繰り返し取り入れる。⇒効果が出てきている。
- 子どもの学び、すごく向上している。
 - ・昨年度と今年度の授業の動画を比較したところ、本当に違っていた。
 - ・昨年度は、子どもの学び合いが際立った。
 - ・今年度は、先生の声のトーンと自信が際立った。
 - ・職員が協同してやっている姿が伝わってきた。
- 今後は、一人一人の先生が微調整していくとよい。
 - ・子どもの顔が先生に向かないと感じたら、コの字から開く形にするとか。
 - ・もはや、先生方の差がない。トップランナーが引っ張るという感じではない。
- ためらわずに、自分のやり方を追究していい。
- 「主体的に」という部分を前面に押し出していい。



2 課題

授業研究会における協議は、これまで子どもたちの学びの見取りに徹してきたが、教師の見取りが丁寧かつ的確になってきた現在、授業者・参観者ともにより深い専門性の高い学びにつながる協議にしていくことが求められている。

今後は授業研究会において、子どもの学びと教材（課題、テキスト、資料）との接点やその接点を通して質の高い学び（深い学び）に達する学びの可能性を中心に協議していく。